



芦安中学校だより

第8号

校長 石原敬彦

2019 12.23

充実した2学期とすることができました。ご理解・ご協力、ありがとうございました。

明日12月24日で2学期が終了します。9月初めの白峰祭に始まり、小中・地域の合同実施による新しい運動会、全校で東京に出かけたエネルギー学習会、バドミントン部の新人大会、初めての音楽部コンサート、ハロウィンパーティー、学校説明会での英語特別授業、芦安文化祭、輪かんじき作り、焼き芋集会、生徒会選挙、生徒総会、クリスマスパーティーなど、本当にたくさんの行事がありました。一つひとつ、「なぜ行うのか」という「意味づけ」を大切にしながら、丁寧に取り組んできました。また継続して学習にも力を入れてきました。現在3年生は、それぞれが自分の夢の実現に向かって、日々の授業を大切にしながら、本格的な受験勉強を行っています。1・2年生も授業に向かう姿勢にさらなる洗練がみられました。職員も多忙な日常の中で授業改善に真摯に取り組まれました。芦安小学校との合同校内研究会も3回実施、毎回小中が1つずつ研究授業を提供、全員で授業を参観してその後には講師の先生方を囲んで研究会を行ってまいりました。平成29年度から取り組んで来た授業改善の一つの成果として、毎年行われている全国学力学習状況調査の結果があります。平成30年度・令和元年度と2年続けて右肩上がりの明らかな向上が認められるのです。テストで測る学力は、富士山に例えれば頂上の部分にあたりますが、高い頂上を支えるためには大きくて広い裾野が必要となります。生徒のおかれた環境にかかわることがら・・・学校から帰った後の家庭生活・・・家庭学習の時間、読書量、テレビ・スマホやゲームの時間、朝食の有無等、また学校におけるさまざまな要素・・・主に人間関係、さらに地域とのつながり等が裾野の部分にあたると思われます。学力は単独で伸びていくのではなく、複合的にさまざまな要素が結びついて伸びていきます。本校が平素からいただいている保護者・地域の皆様からの温かいご支援もその確かな裾野です。大変に実りの多い、充実した2学期とすることができました。今学期も本校教育に対して深いご理解と暖かいご協力をいただきましたことに対し、紙面を借りて改めて感謝を申し上げます。来年もどうかよろしく願いたします。



今年2学期の終業式は12月24日、クリスマスイブの日です。

11月29日朝、芦安の美しい冬景色。沓沢の上は雪化粧。

新生徒会長と副会長決定! 旧生徒会執行部のみなさん、お疲れ様でした。本当にありがとう。



12月16日 生徒総会での旧執行部

12月6日、生徒会選挙が行われ、新しい会長・副会長が決まりました。両名には芦安中学校をさらに素晴らしい学校にしていくリーダーとして活躍することを心より期待します。旧執行部の4人のみなさんは、大きな功績を残しました。私が学校を経営していく上で一番大切にしてきたこと、それからこれから大切にしていきたいことは「対話と合意の形成」です。私たちは一人ひとりが特別な存在であり、お互いに違ってよい存在です。思いや考えも当然違ってよいのです。しかし、同時に私たちは「ともに」「しあわせに」生きていかなければいけません。そのためにお互いの意見をきちんと伝え合うこと、そして合意を形成することが必要になります。生徒数が少ない本校は委員会を組織することがむずかしく、学校生活全般にわたって生徒と職員とが意見を交わし合い、お互いに意思疎通を図ることが以前には十分にはできていませんでした。それを大きく改善したのが今年度の生徒会執行部です。

年度当初の委員会の再編に始まり、学校生活におけるさまざまな事柄について、職員の代表である生徒会顧問団と何度も話し合いを持ち、生徒の代表としての意見や考えを伝えてくれました。そのために多くの時間も割いてくれました。内容にもよりますが、「一部の権限を持つ者の考えですべてが決まってしまう学校」は決して良い学校ではありません。対話をとおして自分の考えを相手にきちんと伝えながら、相手の考えにもきちんと耳を傾ける・・・そして相手の考えとの違いを認めた上で、「ともに」「しあわせに」生きていくためにどうすればよいのか合意の形成に努める・・・これは、人と人との関係性のあり方の基本であり、学校でも最も尊重されなければならないことです。また、グローバル化の進む社会において今後ますます大切になります。まだまだ課題はありますが、「誰もが安心してのびのびと生活できる学校」の真の実現のためにこれからも生徒と職員とで「ともに」歩んでいきたいと思っています。旧執行部の4人のみなさん、お疲れ様でした。本当にありがとう。

芦安ファンクラブの皆様の協力添えて今年も立派な輪かんじき、完成しました！

新聞でも紹介されましたが、昨年に引き続いて今年も芦安ファンクラブの皆様のご支援の下、輪かんじき製作を行いました。11月21日・28日、12月2日の3日間で ①学校林から出た間伐材を茹でて柔らかくして曲げる ②ミスナラの刃に溝を削って枝に取り付ける ③2本の枝を組み合わせて固定する ④縄をつける の4つの行程を完了、立派な輪かんじきが完成しました。出来上がった輪かんじきは、来年3月に卒業する5人の卒業生に贈られる予定です。輪かんじきの製作は、「地域を知る」と同時に「ESD教育」の一環として今後も大切に継続していきたいと考えています。芦安ファンクラブの皆様には、今年も細やかなご配慮で絶妙なサポートをいただきました。本当にありがとうございました。



ミスナラの刃を取り付けるために溝を掘ります

完成した5組の輪かんじき

授業は学校生活全体の時間の8割を占めます。日々の授業を大切にしています。

私は「すべての生徒の学ぶ権利を保障すること」を学校経営の根本に据えています。かつて私は、いわゆる「荒れている学校」に勤務していました。問題行動を繰り返す生徒たちは、例外なく「学び」に背を向けていました。私は当時から、問題の根本は日々の一時間一時間の授業にあるのではないかと感じてきました。従来型の説明が中心の一斉授業では、理解が速い生徒や暗記力がある生徒が授業の中心となります。また、教師からの発問は「正解が一つ」であるものがほとんどなので、その正解を逸早く言い当てることのできる生徒が授業のペースメーカーとなりがちです。それについていけない生徒は「集中力が足りない」「勉強ができない」「怠けている」というレッテルを貼られて取り残されていきます。これでは、すべての生徒の学ぶ権利は保障されるはずありません。折しも文部科学省は「主体的・対話的で深い学び」を提唱、各学校でその具現化に努めるよう求めています。「より良い日々の授業を構築する」芦安中の挑戦も今年で3年目を迎え、今確かな手応えを感じ始めています。



生徒の興味を引き付けながら、授業の目標を明示する花形教諭。



「真性の学び」にはいつも真剣な表情と健康的な笑顔があります。



タブレットを駆使しムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」と向き合う5人の3年生。「創造的で探究的な学び手」として大きく成長しました。



真摯に学ぶ姿には美しさがあります。



4月から7回目を数える小中合同校内研。「9年間を同じベクトルの教育で」挑戦は続きます。

